



---

# 現地視察報告

---

平成 30 年度地域交流  
(都道府県・市区町村交流)

# 平成 30 年度地域交流 現地視察報告

日本スポーツ協会における地域交流は、2002 年ワールドカップサッカー大会の日韓共同開催を記念して平成 9（1997）年から開始した日韓交流を契機に、地域レベルでのスポーツ交流の拡大につなげていくことを目的に平成 15（2003）年から開始しました。

その後、平成 19（2007）年に日中両国政府により実施された 2007「日中文化・スポーツ交流年」を皮切りにスタートした日中交流にあわせて日中地域交流を開始するとともに、平成 28（2016）年には、ロシアとの地域交流支援へと拡大を図り、現在 3 カ国の地域スポーツ交流を支援する枠組みとして実施しています。

近年外交や地域振興等のツールとしてスポーツの価値が見いだされ、スポーツを通じた様々な社会貢献活動が国内外で展開されていますが、本会もこのような情勢を踏まえながら、より多くの地域間スポーツ交流を支援していく取組みを強化してきています。

一方、国は平成 29（2017）年に第 2 期スポーツ基本計画を策定し、スポーツで「人生が変わる」、「社会を変える」、「世界とつながる」、「未来を創る」という 4 つの基本方針を発表しました。特に「世界とつながる」という点においては、「多様性を尊重する世界」、「持続可能で逆境に強い世界」、「クリーンでフェアな世界」の実現に貢献することを掲げています。

また、本会では平成 23（2011）年に発表した「スポーツ宣言日本」の中で提示したグローバル課題の解決に向け、平成 30（2018）年から 5 か年の中期事業方策として「スポーツ推進方策 2018」を策定しました。同方策では、本会が行う「スポーツによる国際交流・協力の推進」の施策の一つとして、各都道府県や市区町村が行う地域交流の財政的支援を掲げ、「各都道府県や市区町村がもつ力を引き出し、また共有することによって、各地域が主体となってスポーツを通じて直接世界とつながることができる環境を創出」することを目指しています。

このような状況を踏まえ、本会では、今後の地域交流の支援策の在り方を検討するため、上記方策の初年度となる平成 30（2018）年度に、本会が支援する複数の地域交流の現場視察を行い、今後の委託金制度の改正や展開方法の改善につなげるためのレポートを作成することとしました。

視察では特に現状の制度が、主に資金面の支援である点を考慮し、視察の主題を「資金援助がなくなった際に当該交流事業を継続させる自走システムの構築」とし、現場での課題や、成功事例等を情報収集のため、交流主管団体の担当者および関係者に直接お話を伺いました。

視察を通じ取りまとめた本レポートが、今後の本会での検討における貴重な材料となるだけでなく、地域でのスポーツ交流を進める方々の参考資料としてご活用いただければ幸いです。

## 視察対象交流

【日中交流】海外小学生バドミントン国際交流事業（京都府長岡京市）

【日韓交流】北九州市・テグ広域市キッズ陸上競技交流事業（福岡県北九州市）

【日露交流】宗像市・ロシア柔道交流事業（福岡県宗像市）

## 日韓地域交流



2018/9

北九州市・テグ広域市キッズ陸上競技交流事業  
福岡県北九州市

【主 管】公益財団法人 北九州市体育協会

一般財団法人 北九州市陸上競技協会

## 交流概要

交流名称	北九州市・テグ広域市キッズ陸上競技交流事業	交流国	韓国
交流期間	2018年9月20日(木)～9月23日(日)	開催地	福岡県北九州市
交流団体	大邱広域市陸上競技連盟	実施競技	陸上競技
主管団体	公益財団法人 北九州市体育協会 一般財団法人 北九州市陸上競技協会	開催数	新規
選手構成	・福岡県内小学生陸上クラブ会員 ・一般小学生参加希望者	参加区分	小学生
実施経緯	<p>2014年11月に北九州市で開催された「西日本陸上競技カーニバル」にて大邱広域市より役員・選手12名を受け入れた事をきっかけに、大邱広域市陸上競技連盟と継続的に交流を実施している。(下記参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年11月 韓国マスターズ室内陸上競技大会【開催地：大邱広域市】 (北九州市より役員・選手12名を派遣)</li> <li>・2016年10月 北九州市民体育祭(陸上競技)【開催地：北九州市】 (大邱広域市より役員・選手20名を受入)</li> <li>・2017年7月 韓国小学生室内陸上競技大会【開催地：大邱広域市】 (北九州市より役員・選手23名を自費派遣)</li> <li>・2018年9月 第8回キッズ・チャンピオンゲームズ IN 北九州【開催地：北九州市】 (大邱広域市より役員・選手24名を受入)</li> </ul>		

## 視察概要

日 程	2018 年 9 月 22 日(土) 12:00～15:00	視 察 員	2 名 (小野寺国際課長・高橋主事)
視 察 先	北九州市立鞆ヶ谷競技場	視 察 内 容	競技会見学
目 的	本会の委託する標記交流の様子を視察するとともに、主管団体担当者および参加者から直接話を伺い、本交流の在り方や今後の展開等について検討するため。		

## ヒアリング結果①

### ◇ 回答者



**井上 慎一郎 さん**

Shinichiro Inoue

一般財団法人 北九州市陸上競技協会  
会長



**安藤 道夫 さん**

Michio Ando

一般財団法人 北九州市陸上競技協会  
副理事長



## ◇ 質問事項

1. 委託金制度
2. 実施交流
3. 交流財源
4. 組織間連携
5. その他

## ◇ ヒアリングまとめ

### 1. 委託金制度

質問 # 1 :	本会の地域交流（都道府県・市区町村交流）の存在はいつからご存知でしたか。
回答 :	以前から知っていた。2017 年度に本交流の委託希望申請をしたが不採用となり、北九州市陸上競技協会が経費負担をし、北九州市内の小学生 16 名、役員 7 名を大邱広域市に派遣した。
質問 # 2 :	地域交流委託制度を利用するメリット・デメリットについて教えてください。
回答 :	<p>メリットは、委託金を交付して頂ける点。日本スポーツ協会からの委託金がなければ、北九州市陸上競技協会の積立金から経費を支出し交流運営をしなければならず、交流規模も縮小し実施しなければいけなくなる。</p> <p>デメリットは、特に受入交流時の予算や決算において、宿泊やバス代等の各項目における現状の価格帯や手配内容と、日本スポーツ協会へ提出する証憑書類の取得ルールが異なり整合性を合わせる必要があるため、領収書が取りにくい。また、各経費の細かな領収証の入手が困難な場合がある。交流実施に係る各経費については、すべて受入団体が手配・負担しているが、日本スポーツ協会へ提出する領収書の宛先も、受入団体名ではなく、日本スポーツ協会が本交流の委託契約を結んでいる都道府県体育(スポーツ)協会としなければならない。受入団体が経費負担をしているのであれば、宛先は受入団体にすべきではないか。</p>

## 2. 実施交流

質問 # 1 :	準備期間はどのくらいですか。また、相手国との連絡はどの程度の頻度で行いましたか。 (連絡時の言語も教えてください)
回 答 :	<p>約一年前から準備が始まる。大邱広域市とは相互交流という形で交流を実施しているため、一年前に相手国を訪問した際に次年度の交流に向けて打ち合わせを行う。</p> <p>交流実施にあたり、韓国側と連絡を取り合う際の窓口は、大邱広域市教育委員会。普段は、北九州市陸上競技協会と大邱広域市教育委員会の間に通訳(金氏)が入り、メールで連絡を取り合っている。</p> <p>通訳(金氏)とは、日本スポーツマスターズ 2013 北九州大会の際に通訳をお願いした事をきっかけに、様々な交流で通訳をお願いしている。</p>

質問 # 2 :	参加料等、参加者負担等がありますか。もしあれば、内訳を教えてください。
回 答 :	<p>「第 8 回 キッズ・チャンピオンズゲームズ IN 北九州」の参加料は一人 1,000 円 ※韓国選手からの徴収はなし</p> <p>補足情報として、2017 年度に大邱広域市に小学生 16 名、役員 7 名を自費派遣した際は、渡航費や雑費を含め 30,000 円程度の参加料となった。日本体育協会から委託金を受けていれば、渡航費を差し引き 15,000 円程度の参加料となり、個人の負担が少ない予定だった。</p>



### 3. 交流財源

質問 # 1 :	本交流の計画段階の予算編成について教えてください。
回答 :	約 100 万円程度。

質問 # 2 :	本会委託交流に選定されなかった場合、本交流は実施していましたか。また実施していた場合の財源確保はどのように計画していましたか。
回答 :	選手数と役員数を減らして実施していた。委託金を受けられなかった場合、北九州市陸上競技協会の積立金の中の国際交流費から経費を支出する事となる。例年、大邱広域市からは「参加者数が減ったとしても大邱に来て欲しい」との願いがある。  また、委託金を受けられなかった場合は、経費の問題で移動用バスを借上げる事が出来ないため、北九州市陸上競技協会の職員が自家用車を出し対応する事になっただろう。





#### 4. 組織間連携

質問 # 1 :	本交流実施にあたり何団体と組織間で連携していますか（共催・後援含む）。また、その内訳を教えてください。
回 答 :	<p>&lt;主催&gt; 公益財団法人福岡県体育協会、北九州市、公益財団法人北九州市体育協会</p> <p>&lt;共催&gt; 一般財団法人北九州市陸上競技協会</p> <p>&lt;大会主管&gt; NPO 法人北九州陸上クラブ RiC</p> <p>※一般財団法人北九州市陸上競技協会および NPO 法人北九州陸上クラブ RiC が本交流の主担当として大会を運営している。</p>

質問 # 2 :	本交流を実施するにあたり、公益財団法人福岡県体育協会および公益財団法人北九州市体育協会とどのように連携・協力しているのか教えてください。
回 答 :	<p>現在の申請・報告の流れは、「日本スポーツ協会」⇒「福岡県体育協会」⇒「北九州市体育協会」⇒「北九州市陸上競技協会」となっている。報告はその逆である。</p> <p>実際に費用負担をしているのは「日本スポーツ協会」と「北九州市陸上競技協会」である。県・市の両体育協会は本交流に係る費用を負担していない。ならば、申請までは上記の通りの手順の流れであっても良いが、許可がおりた後の連携は、「日本スポーツ協会」と「受入団体」と直接させていただくとスムーズな書類の流れとなるのではないかと。書類の送付、修正等をする際、県・市体育協会を必ず通す必要があり、手間をかけてしまっているのが現状である。問い合わせや質問をする際も時間がかかってしまう。北九州市の場合、政令指定都市ということもあるので、北九州市体育協会から日本スポーツ協会へ直接申請・報告する事が可能になるだけでも、若干の手続きの省略ができるのではないかと。</p> <p>また、委託金交付までの流れも上記と同様で、領収証の宛先も、県体育協会名で取得する必要があり煩雑であるため、宛先はすべて日本スポーツ協会名に統一して良いのではないかと。</p>



## 5. その他

質問 # 1 :	本交流の持続可能性（委託金がある場合、ない場合）について、教えてください。
回答 :	青少年を対象とした大邱広域市との交流は五年計画で実施しており、今年度が二年目になる。委託金を受けられない場合でも、選手や役員数を縮小し実施していく。

質問 # 2 :	本交流の今後の展開について、計画があれば教えてください (担当者の個人的なイメージでも可)
回答 :	まずは、青少年交流を残り三年間続けていく。交流形式については、受入国がどの大会に相手国選手団を招聘するかに応じて変わっていく。  また、地域交流をきっかけに、両国で開催される国際大会へ参加する機会も増えていくのではないかと感じている。例えば、大邱広域市が招致予定である 2024 年の世界マスターズ陸上競技選手権大会では、大邱広域市の方から、開催が実現した際には福岡県の選手を招聘したいとの要望があがっている。



## ヒアリング結果②

韓国側担当者にも

話を聞いてみました！

### ◇ 回答者



**カン テギユ さん**

Kang Tea Kyu

韓国・大邱広域市文化体育観光局

体育振興課 主務

質問 # 1 : 韓国側担当者として、今回の地域交流に参加して感じた事を教えてください。

回答 : 大会運営面における日本と韓国の違いが多く、学べる点が多いと感じた。  
今回の大会は、大会運営や大会運営支援を地域のスポーツクラブである「NPO 法人北九州陸上クラブ RiC」、並びに市区町村競技団体である「北九州市陸上競技協会」が主体となっていると伺っている。

韓国は日本とは異なり、大会管理を大邱広域市が行い、競技運営を大邱陸上連盟が行っている現状である。市としては、将来的に競技団体が主体となり日韓交流を実施出来るようになって欲しいと望んでおり、今回の交流には、大邱市陸上連盟の副会長及び専務理事を視察も兼ねて連れて来ている。

交流期間中は、日本の運営スタッフと話を出来る時間も多いため、大会運営方法等の情報交換をしている。期間中は、選手だけではなく、運営側としても充実した時間を過ごしている。



質問 # 2 : 北九州市とは相互交流という形で交流を実施しているという事ですが、  
相互交流の良い点があれば教えてください。

回答 : お互いの国の違いを肌身で感じられる事。  
陸上競技大会を実施する際、大邱広域市では屋内競技場を使用するが、北九州市では屋  
外競技場を使用する。お互いの国を訪問し大会に参加する事で、相手国の陸上競技におけ  
る環境の違いを体験出来る。また、競技環境だけではなく、参加する選手達が相手国の言語  
や文化を現地で学ぶ事が出来る点も、相互交流の良い点。

質問 # 3 : 以前は、成人を対象に北九州市と交流を行っていたという事ですが、  
対象を青少年に変更した理由を教えてください。

回答 : 青少年時期から陸上競技に親しむ事により、将来的にトップアスリートとなる選手が増えるので  
はないかと期待している。また、トップアスリートとしての活動が終わった後は、生涯スポーツとして  
陸上競技を楽しむ事になる。このように、青少年～成人まで生涯を通してスポーツを楽しむ事  
が出来るようなシステムを大邱広域市として作っていかねばならないと考えているため、まず  
は土台となる青少年を対象に交流を実施する事とした。このようなシステムが定着する事で、市  
民の健康維持や体力増進にも繋がるのではないかと考えている。

質問 # 4 : 最後に、交流に参加する選手へ期待する点を教えてください。

回答 : 実際に相手国を訪問する事で多くの事を学ぶ事が出来る。青少年世代の多くの子供達には、  
交流を通してたくさんの経験を積んで欲しい。そして、この交流で経験した事を将来自分の生  
活の中で活かして欲しい。



## まとめ

---

### 相互交流を活かした交流継続

- 運営担当者同士で定期的に顔合わせする事ができ、次年度の交流準備を早期から円滑に進められる。
- 相手国を訪問し自国と比較する事により、運営担当者及び参加選手にとって様々な有益な情報を得られる。  
「また会えたね」「久しぶり」日韓両国の担当者や選手が口にしていた言葉だ。相互交流という形式が参加者の距離を縮めているように感じられた。

### 国際交流を通じたつながり

- コーディネーター（連絡・調整係）及び通訳との関係性が交流成功へのカギ。  
今回の現地視察を通して一番に感じた事は、コーディネーター（連絡・調整係）及び通訳の重要性についてだ。相手国との日頃の連絡・調整はもちろん、期間中通訳もこなす通訳の金氏の存在がとても重要だと感じた。通訳の金氏とは、プライベートでも連絡を取り合う程の仲だという安藤氏。金氏の存在無しでは円滑に交流を実施するのは難しいとの事。また、金氏は日本スポーツマスターズや日韓青少年夏季スポーツ交流をはじめとするスポーツ交流における通訳経験が豊富との事で、運営担当者や選手への対応も素晴らしいと語った。

## 日中地域交流



2018/8

海外小学生バドミントン国際交流事業  
京都府長岡京市

【主 管】長岡京市体育協会

## 交流概要

交流名称	海外小学生バドミントン国際交流事業	交流国	中国
交流期間	2018年7月26日(木)～8月1日(水)	開催地	京都府長岡京市
交流団体	中国浙江省選抜チーム	実施競技	バドミントン
主管団体	長岡京市体育協会	開催数	新規
選手構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡京市バドミントンスポーツ少年団</li> <li>・若葉カップ全国小学生バドミントン大会参加チーム</li> <li>・日本小学生バドミントン連盟 U13 強化指定選手</li> </ul>	参加区分	小学生
実施経緯	<p>寧波市と長岡京市は 1983 年（昭和 58 年）に友好都市盟約を締結し、以降代表団や友好団の相互訪問の他、過去 8 期に渡る寧波市からの技術研修生受け入れ事業を行ってきた。一昨年に開催されたテニス大会に友好姉妹都市の関係から寧波市から招聘を受け、参加したことによって、引き続き交流をより一層深めることとした。</p>		

## 視察概要

日程	2018年7月27日(土) 10:30～12:00	視察員	2名 (小野寺国際課長・高際)
視察先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府立乙訓高校</li> </ul> ※台風接近のため午後の視察は中止	視察内容	・日中合同練習
目的	本会の委託する標記交流の様子を視察するとともに、主管団体担当者および参加者から直接話を伺い、本交流の在り方や今後の展開等について検討するため		



## ヒアリング結果

### ◇ 回答者



**岡橋 佳輝 さん**

Yoshiteru Okahashi

**(公財)長岡京市体育協会 職員**

本交流の企画・調整および  
運営業務を担当



**梶原 浩司 さん**

Koji Kajiwara

**長岡京市教育委員会  
文化スポーツ振興室  
室長補佐兼スポーツ振興係長**

### ◇ 質問事項

1. 委託金制度
2. 実施交流
3. 交流財源
4. 組織間連携①
5. 組織間連携②
6. その他



## ◇ ヒアリングまとめ

### 1. 委託制度（回答者：長岡京市体協 岡橋さん）

質問 # 1 :	本会の地域交流（都道府県・市区町村交流）の存在はいつからご存知でしたか。
回答 :	知っていた。2016 年に「テニス競技」の派遣交流を寧波市で行った際も、日本スポーツ協会に委託交流として実施していただいた。それ以前は知らなかった。
質問 # 2 :	地域交流委託制度を利用するメリット・デメリットについて教えてください。
回答 :	主管・共催団体間で賄いきれない経費を本委託金にて補助していただける点は大変ありがたい。デメリットはとくにない。
質問 # 3 :	地域交流委託制度において（経費補助以外で）新たなメリットの創出のアイデアがあれば教えてください。
回答 :	地域交流の対象国が 3 カ国（中国・韓国・ロシア）に限定されているので、ほかの国との交流を実施または発展させていく際に、本委託制度が利用できるようにしていただけると、可能性が広がると思う。 長岡京市は 2017 年度にラオスと同競技・内容で受入交流を実施しているが、対象国ではなかったため本委託制度に申請できなかった。



## 2. 実施交流（回答者：長岡京市体協 岡橋さん）

質問 # 1 :	準備期間はどのくらいですか。また、相手国との連絡はどの程度の頻度で行いましたか。 (連絡時の言語も教えてください)
回 答 :	2017 年 9 月頃から準備している。したがって、準備期間はおよそ 10 ヶ月である。 本交流の連絡・調整全般をお手伝いいただいた浙江省の元バレーボール代表選手である中島 詩帆（劉云）さんが現地の団体と関係があり、本交流実施のきっかけを作っていた。 ※中島さんは今回の交流で通訳としても活動している

質問 # 2 :	一昨年（2016 年）、寧波市から招聘を受けた際の経緯や詳細を教えてください。
回 答 :	寧波市と長岡京市は友好都市盟約を締結しており、長年の友好関係がある。 2016 年に寧波市からテニス大会参加のお話をいただいたとき、私（岡橋氏）はプレイヤーとして参加した。 寧波市の秘書部にはコンさんという方がいて、当時のテニス大会招聘事業と、今回のバドミントン交流の担当をしている。コンさんは日本語が堪能で、現地とやり取りをする上でも非常に助かった。

質問 # 3 :	参加料等、参加者負担等がありますか。ある場合は、内訳を教えてください。
回 答 :	参加料はない。渡航費は中国側の負担であるが、内訳や詳細は不明である。 日本国内の経費はすべて主催・共催団体が負担している。 ※交流プログラムの一環として参加する「若葉カップ大会」への参加料についても、中国選手団の負担はない。



### 3. 交流財源（回答者：長岡京市体協 岡橋さん）

質問 # 1 :	交流先団体と費用分担を行っている場合は、その詳細を教えてください。
回答 :	交流先団体が負担しているのは中国側参加者の渡航費のみである。

質問 # 2 :	本交流の計画段階の予算編成について教えてください。
回答 :	長岡京市が約 100 万円（「未来への種まきプロジェクト」（※詳細後述）として予算計上）、長岡京市体育協会が約 60 万円、合計 160 万円規模の予算を編成していた。

質問 # 3 :	本会委託交流に選定されなかった場合、本交流は実施していましたか。また実施していた場合の財源確保はどのように計画していましたか。
回答 :	実施していた。 しかし、委託交流として内定をいただいていた場合、委託対象経費分は長岡京市体育協会の負担となっていたため、財源の確保には苦慮していたらう。



#### 4. 組織間連携①（回答者：長岡京市体協 岡橋さん）

<p>質問 # 1:</p>	<p>本交流実施にあたり何団体と組織間で連携していますか（共催・後援含む）。また、その内訳を教えてください。</p>
<p>回答 :</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡京市体育協会</li> <li>・長岡京市</li> <li>・長岡京市スポーツ少年団</li> <li>・日本バドミントン連盟 U13 強化指定選手</li> <li>・寧波市のバドミントンチーム（全 6 チーム：男子 3 / 女子 3） 等</li> </ul> <p>※寧波市のバドミントン競技統括団体とのやり取りではなく、基本はチームに直接コンタクトをとっていた。</p>
<p>質問 # 2:</p>	<p>交流経費について、団体間での割り振りがあれば詳細を教えてください。</p>
<p>回答 :</p>	<p>前述のとおり、渡航費以外の費用は、長岡京市体育協会と長岡京市が負担している。他の団体の費用負担はない。</p> <p>※「若葉カップ」の参加者には交通費・宿泊費に一部補助が出ており、交流と競技会と抱き合わせることで、実質日本側の参加者負担が大幅に軽減されている</p>
<p>質問 # 3:</p>	<p>自治体との連携はしていますか。また自治体の政策について、本交流との関連があれば詳細を教えてください。</p>
<p>回答 :</p>	<p>長岡京市と連携している。</p> <p>長岡京市体育協会は、長岡京市の地域スポーツ振興政策の一つである「未来の種まきプロジェクト」を連携して計画・実施している。</p>





## 5. 組織間連携②（回答者：長岡京市 梶原さん）

質問 # 1:	長岡京市が実施している「未来の種まきプロジェクト」について教えてください。
回答:	<p>2016 年頃、国から各自治体に対して、東京 2020 オリパラ大会の実施に関連したホストタウン事業の推進について通知があったが、長岡京市で検討した結果、ホストタウンではなく、東京 2020 オリパラ大会や関西ワールドマスタースゲームズ 2021 などのビッグ・イベントイヤーを含む 5 ヶ年計画（2017-2021）で国際青少年交流事業「未来の種まきプロジェクト」を立案し、実施している。</p> <p>ホストタウン事業においては、基本は 1 国 1 競技を対象とした枠組みで実施されるが、本プロジェクトは、ジュニア世代を対象に、より多くの国と様々な競技で交流することを目的としている点で、事業の持続可能性を高めていると共に、長岡京市の独自性をアピールできていると考えている。</p> <p>国内で開催される国際スポーツイベントを契機とした取り組みを一過性のものとして終わらせず、長岡京市のレガシーとして継続・発展させるという考えのもと、本プロジェクトで一定の成果を出し、2021 年以降の新たな事業に繋がるよう取り組みたい。</p> <p>※同プロジェクトは「東京 2020 参画プログラム」の認定を受けている                  ※同プロジェクトの初年度（2017 年度）はラオスとのバドミントン交流を実施した</p>



### 『未来の種まきプロジェクト』 関連情報

- ・長岡京市体育協会だより No.120 2018.6  
<http://www.sports-nagaokakyo.or.jp/pdf/taikyoku-dayori.pdf>
- ・東京 2020 参画プログラム  
<https://participation.tokyo2020.jp/jp/event/detail.html?id=a090I0000wSOznQAG>

## 6. その他（長岡京市体協 岡橋さん）

質問 # 1 :	国際交流を実施する上で（または継続する上で）何がポイントになるか、ご意見があれば教えてください。
回答 :	国際交流の基本は人と人（個人間）のつながりをきっかけに発展し、具体化されていく傾向であると感じているが、一方で、より多くの人を巻き込み、持続可能な交流に展開するためには、個人間のつながり以上に、自国と相手国における行政間のつながりが重要になると思う。 さらに、国内の（地域の）公共団体や行政機関のニーズやビジョンの一致が、国際交流の実施において必要であると同様に、相手国のニーズ自体も把握する必要がある。



## まとめ

---

### 委託金制度

- 資金源としての委託制度適用は、交流の開催にあたって主管団体の大きな援けになっている  
⇒トライアル型で試験的に実施してみたい、と考える団体にとってメリットは大きい
- 対象国の枠を増やしてほしい（特に東南アジア地域）という要望があった。この背景には、東南アジア地域の経済発展や訪日観光客の増加、格安航空路線の拡大などの影響で、東南アジア諸国が以前に増して「交流しやすい国」になっていることが考えられる。

### 個人間のつながり

- 在日外国人や在外日本人など、個人レベルで地域間の橋渡し役になれる人の存在は重要である
- コーディネーター（連絡・調整係）には、現地と関係を持っている、かつ現地語に堪能な人が適任
- 普段からコーディネーターとなり得る人とコミュニケーションをとることで、潜在的な交流パートナーのニーズを知る機会が増え、交流の実現性を高めることができる
- コーディネーターは事前準備だけでなく、交流期間中は「通訳」としての重要な役割を果たす

### 財源の確保

- 行政との連携で財源の安定的確保が見込める（国庫補助で運営されている日本スポーツ協会の国際交流と同様の状況を市区町村レベルで実現するという方法）
  - 既存大会と交流を抱合せ、出場者を交流参加者（日本人）に含めることで、宿泊費や交通費など（補助が出るような大会であれば）節約することができる
- ※今回はスポンサー料など別の財源情報がなかったため、次回以降、スポンサー料を財源としている交流を視察対象としたい。

### 行政との連携

- 前項記載のとおり、行政との連携・協力関係を構築し、地域におけるスポーツ関連政策の一環として国際交流を実施することで、交流の持続性や将来性が高まる

## 日露地域交流



2018/12

宗像市・ロシア柔道交流事業

福岡県宗像市

【主 管】宗像市・サニックススポーツ振興財団  
グローバルアリーナ



## 交流概要

交流名称	宗像市・ロシア柔道交流事業	交流国	ロシア
交流期間	2018年12月22日(土)～12月28日(金)	開催地	福岡県宗像市
交流団体	ロシア・サンクトペテルブルク ヤワラーM	実施競技	柔道
主管団体	宗像市・(一財)サニックススポーツ振興財団・グローバルアリーナ	開催数	15
選手構成	<中学生男子> 海外 14 チーム 79 名、国内 76 チーム 477 名 (県外 47 チーム 295 名、県内 29 チーム 182 名) が参加	参加区分	中学生
実施経緯	グローバルアリーナ(宗像市)で開催されるサニックス旗福岡国際中学生柔道大会にロシア柔道チームを招待し、大会参加及び合同練習会を通じたスポーツ交流と文化探訪等の文化交流を行っている。		

## 視察概要

日 程	2018年12月26日(水)、27日(木)	視察協力	スポーツ庁国際課 (桑川国際課長、金岡係長、小倉係員)
視察先	北九州市立鞆ヶ谷競技場	視察内容	競技大会・合同練習会
目 的	本会の委託する標記交流の様子を視察するとともに、主管団体担当者から直接お話を伺い、本交流の在り方や今後の展開等について検討するため。		



## ヒアリング結果

### ◇ 回答者



**瀧口 啓太郎 さん**

Keitaro Takiguchi

宗像市 文化スポーツ課 スポーツ政策係長



**渡邊 敏行 さん**

Toshiyuki Watanabe

株式会社サニックス

スポーツ・文化振興事業部

(一般財団法人サニックススポーツ振興財団)

次長

### ◇ 質問事項

1. 委託金制度
2. 実施交流
3. 交流財源
4. 組織間連携
5. その他

## ◇ ヒアリングまとめ

### 1. 委託金制度

質問#1:	今回の地域交流委託制度には新規で申請していただきましたが、以前から地域交流の存在は知っていましたか。
回答:	本市はロシアのホストタウンとして東京オリンピック出場を目指す女子セブンズラグビーの事前キャンプ受入を実施していました。ロシアとの交流を深めていく中で本制度の対象国に今年度からロシアが追加されたと知り、申請しました。 (回答者 瀧口)

質問#2:	地域交流委託制度を利用するメリット・デメリットについて、感じていることがあれば教えてください。
回答:	金額的な負担軽減はもとより、対象チームと接する機会が増加し関係性の強化にもつながる点がメリットだと感じます。 申請時期が限定されており対象となる交流事業が限定されるため年度を通じて申請できるように改善をお願いしたいと思います。 (回答者 瀧口)



## 2. 実施交流

質問#1:	準備期間はどのくらいですか。 また、相手国との連絡はどのくらいの頻度で行っていますか (連絡時の言語も教えてください)。
回答:	半年ほど前から連絡を取り合い、フライトの確定、メンバーの決定、ビザ申請、チーム情報の提出など適宜準備を進めていきます。連絡言語はロシア語です。 (回答者 渡邊)

質問#2:	参加料等、参加者負担等がありますか。もしあれば、内訳を教えてください。
回答:	参加料 1 チームあたり男子 5,000 円、女子 3,000 円としていますが、海外チームからは受け取っていません。 (回答者 渡邊)





### 3. 交流財源

質問#1:	交流先団体と費用分担は行っている場合は、その詳細を教えてください。
回答:	旅費、宿泊費ともに大会側が負担しています。3 月にはロシアでの柔道大会に福岡県選抜チームが招待され、旅費、宿泊費はロシア側が負担してくれます。福岡県選抜チームのメンバーはサニックス旗に出場した選手で構成されます。 (回答者 渡邊)

質問#2:	本会委託交流に選定されなかった場合、本交流は実施していましたか。また実施していた場合の財源確保はどのように計画していましたか。
回答:	実施していました。予算はサニックススポーツ振興財団が負担します。 (回答者 渡邊)





## 4. 組織間連携

質問#1:	自治体との連携はしていますか。 また自治体の政策について、本交流との関連があれば詳細を教えてください。
回答:	本大会に限らず当財団が実施する国際大会については宗像市と連携して実施しています。宗像市グローバル人材育成プランに基づく国際交流の地域資源として活用してもらっています。 (回答者 渡邊)

## 5. その他

質問#1:	本交流の持続可能性（委託金がある場合、ない場合）について、教えてください。
回答:	本交流は次世代を担う青少年のために、『競技力の向上、スポーツを通じた健全育成、国際異文化交流』を理念として人間形成に役立てていただくよう持続可能な限り続けます。 (回答者 渡邊)

質問#2:	本交流の今後の展開について、計画があれば教えてください (担当者の個人的なイメージでも可)
回答:	柔道、そしてロシアに限らず、世界各国の青少年が活躍できるステージを提供し、前出の理念を基として人間形成につなげていきたいと思っています。 (回答者 渡邊)

質問#3:	地域における国際交流の推進に関して、 日本スポーツ協会に期待することを教えてください（具体的に）。
回答:	より良い環境を作るため、地域に対してスポーツ国際交流への資金補助、事前告知、結果報告等をしていただくとありがたいです。 (回答者 渡邊)

## 視察概要報告

< 1 日目 >

### ○大会視察

本交流は宗像市にあるグローバルアリーナで開催されるサニックス旗福岡国際中学生柔道大会にロシア柔道チームを招待し交流を行うものであり、大会後に練成会や文化交流を行うスケジュールであった。サニックス旗福岡国際中学生柔道大会は、国内外の招待チームの他、全国から集まったチームを併せ、男子 90 チーム、女子 59 チームのトーナメント方式で実施された。国外からの選手は、審判の日本語に困惑しながらも正々堂々と戦っており、最後の挨拶では、日本選手と抱き合うシーンも見ることができ感動した。国内の選手も海外の文化などを懸命に理解しようとしており、まさに国際交流の場であった。

表彰式では、宗像市の副市長をはじめ、多くの関係者が参加し宗像市の名産物や後援企業などからの贈答品が贈られた。また、グローバルアリーナ滞在中のマナーを表彰する、グッドマナー賞というものを設けており、女子は中国のチームが選出され、日本発祥の柔道を通してこそこの賞であると感じた。



## ○関係者ヒアリング

視察中に、宗像市、福岡県体育協会、サニックススポーツ振興財団、グローバルアリーナと意見交換する場を設けていただいた。まず、宗像市より、スポーツやホストタウンの制度を利用したブルガリアやロシアとの交流を紹介いただき、その後ざっくばらんな意見交換を行った。スポーツを通じた国際交流の意味を見いだせない自治体がある中、しっかりと交流の意味を理解したうえで実施しており、スポーツの持つ力を異文化理解や観光など様々な場面に応用しており感銘を受けた。

### 【ヒアリングまとめ】

- ✓ グローバルアリーナは青少年の国際交流を目的に創設された
- ✓ 現在実施している国際交流事業は、一つの間からつながりが増え、その伝手を活用し広がったもの
- ✓ 外国の方と交流したい人が多いが交流する場がないため、スポーツを通して交流する場を作る
- ✓ サニックスやグローバルアリーナが実施している事業を市が支援することにより発信力を高めている
- ✓ 通訳や食事が課題であり、またそれがとても重要である
- ✓ 競技種目などを鑑み、交流国を選定
- ✓ 今後は学校間交流を考えているが、単に学校同士の交流ではなく、個と個の交流を大切にしたい
- ✓ 都市間交流の際には、まず互いに高め合える競技を決めてから
- ✓ スポーツを通じた国際交流は異文化理解につながり、それがやがて障がい者への配慮などの共生社会の理解につながる
- ✓ スポーツを通し、文化にも触れてもらうことでやがてリピーターとして戻ってくれることを期待しており、経済活性化にもつながると考えている



<2 日目>

○合同練習会

大会参加者同士で行う練習試合も実施しており、大会翌日にも関わらず試合本番さながらに練習を行っていた。サントペテルブルク・ヤワラーM に少しお話を伺うこともでき、日本はとても居心地がよく、食事もおいしかったという。コーチ陣含め笑顔で答えていただいたことが印象的である。

○グローバルアリーナ視察

青少年交流を目的として設立されグローバルアリーナはスコットランドをイメージした建物などが立ち並んでおり、様々な施設や工夫があった。宿泊棟での事前キャンプに向け改修があり、快適に過ごせるような環境を整えていた。

また、グローバルアリーナではなるべく直接雇用する職員で施設を運営しているという。併設していたレストラン、天然芝のグラウンド整備、グローバルアリーナが創設したクラブチームのコーチなどほとんどを自前で運営していた。さらに、国内のスポーツイベントを開催して年中可動できるような体制を作っており、施設全体を上手く活用していた（国外になるとサニックスも連携）。



スポーツと、望む未来へ。



日本スポーツ協会  
Japan Sport Association